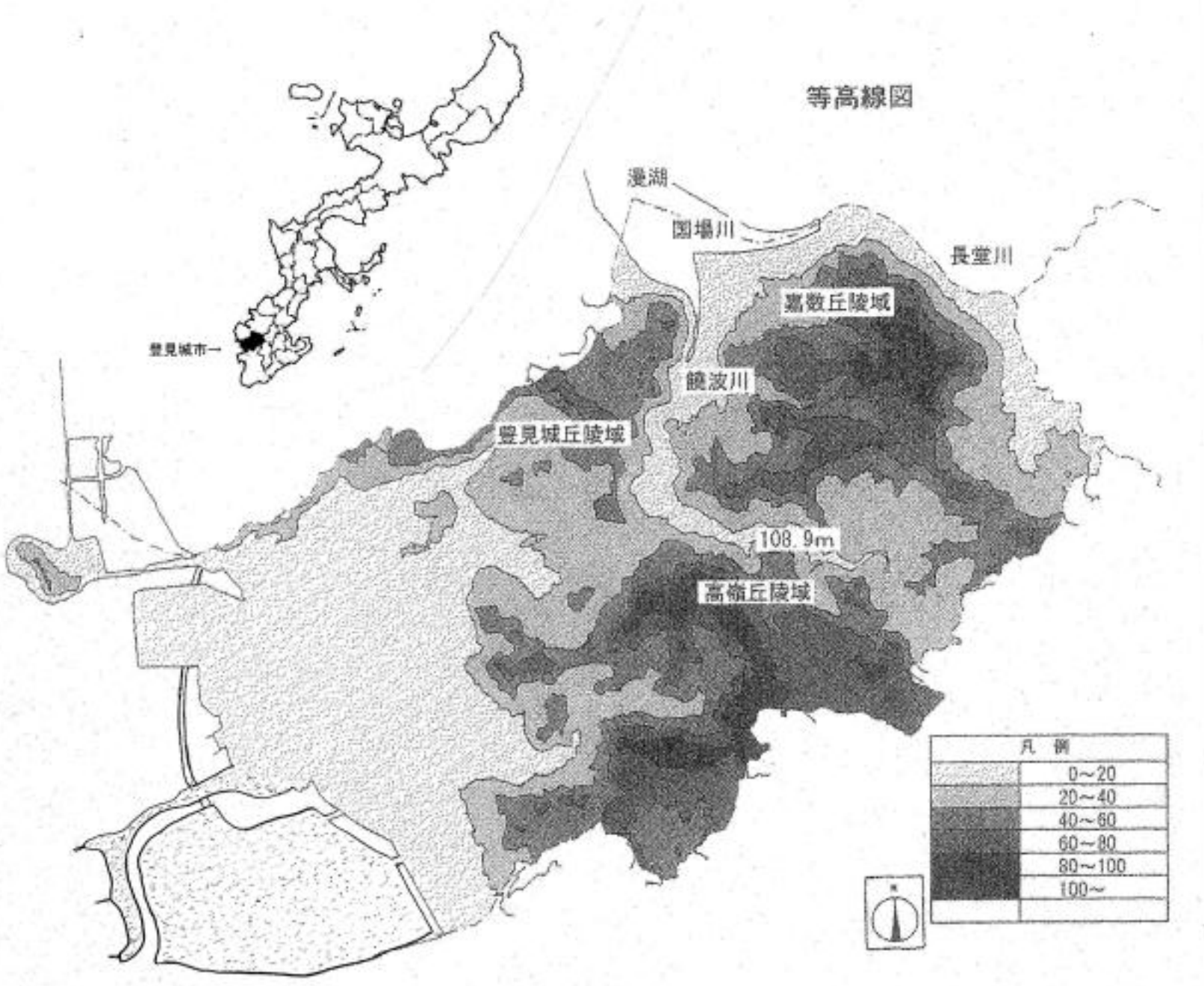
第４章　市の地理的、社会的特徴

市は、国民保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり考慮しておくべき市の地理的、社会的特徴等について定める。

(1)　市の地形



本市は、沖縄本島南西部にあって、北緯２６度１０分、東経１２７度４０分に位置する。市の北側を県都である那覇市、東を南風原町及び八重瀬町、南を糸満市と接し、西は東シナ海に面している。

面積は、１９．４平方kmで、市の地形的特徴としては、内陸部となる東側一帯が緩

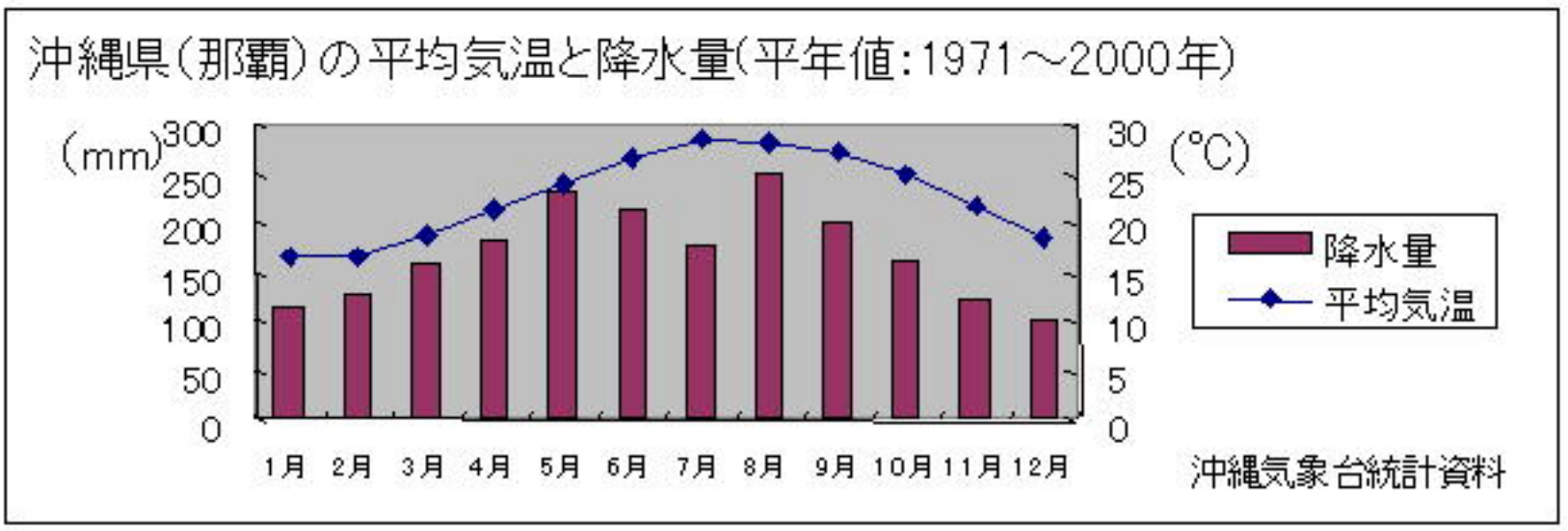
やかな起伏を持つ丘陵地帯で形成され、沿岸部である西部一帯は、志茂田平野を中心に平野部が広がっている。

主な丘陵地帯としては市内北東部に展開する嘉数丘陵域、東南部に位置し市内最標高１０８．９ｍを擁する高嶺丘陵域及び北西部の豊見城丘陵域などが連なり、それらの丘陵地帯の合間に広がる平野部には長堂川、饒波川が流れ、国場川、漫湖へと合流する。また西部においては保栄茂川が西部沿岸域へと流れている。

また、市内北西端には、沖縄の空の玄関・那覇空港が隣接するほか、漫湖から最下流域に至れば那覇港が存在するなど、県内の主要な空港・港湾とも近接した距離にある。このほか、那覇空港に隣接して沿岸部には本島側と海中道路で繋がっている瀬長島があり、住宅は存在しないが行楽客等が自由に往来している。さらに西沿岸部の与根・翁長地先は、平成９年より豊崎地区として海岸が埋立てられ、居住区域、商業区域、レジャー区域としての複合的開発が進められ年々、県内外から訪れる観光客等の往来も増加している。

市内には国道３３１号や那覇空港自動車道、県道１１号線、奥武山米須線（県道７号線）、県道６８号線などの国、県の幹線道路が走っており、那覇地域から南部地域との陸路、とりわけ小禄地区及び糸満市域とを結ぶ交通の要衝となっている。

(2)　気候



本市は、四季を通じて温暖多湿で、亜熱帯海洋性気候特有の天候が多く見られる。

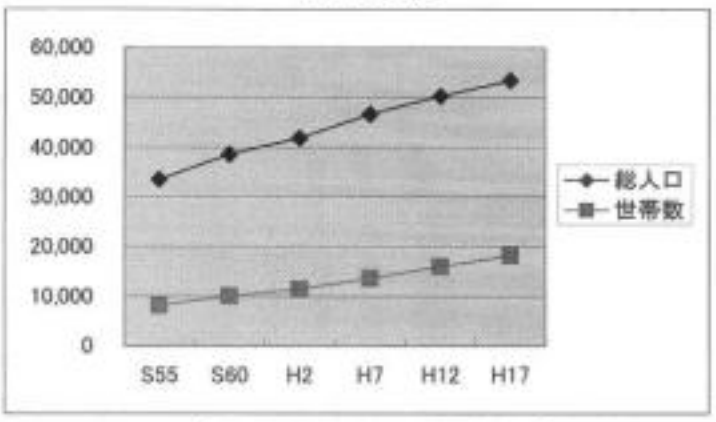
年平均気温は２２．４度、最寒月の1月でも１６．０度と温暖で、年降水量は２０３６．８㎜、５～6月の梅雨期と台風の多い夏季に多雨現象が見受けられる。大きな特徴として、アジア季節風帯にあって、夏と冬の季節風の交替が顕著である。５月～８月は南寄り、１０月～翌３月にかけては北寄りの季節風が吹く。冬季大陸性高気圧の張り出す北寄りの季節風が吹く時期には、一般に小雨を伴なう曇天候が多く、南寄りの季節風期には晴天が多い。

台風の主要進路にあたり、その常襲地帯となっており、猛烈な暴風雨による被害を

受ける地域である。

(3)　人口分布

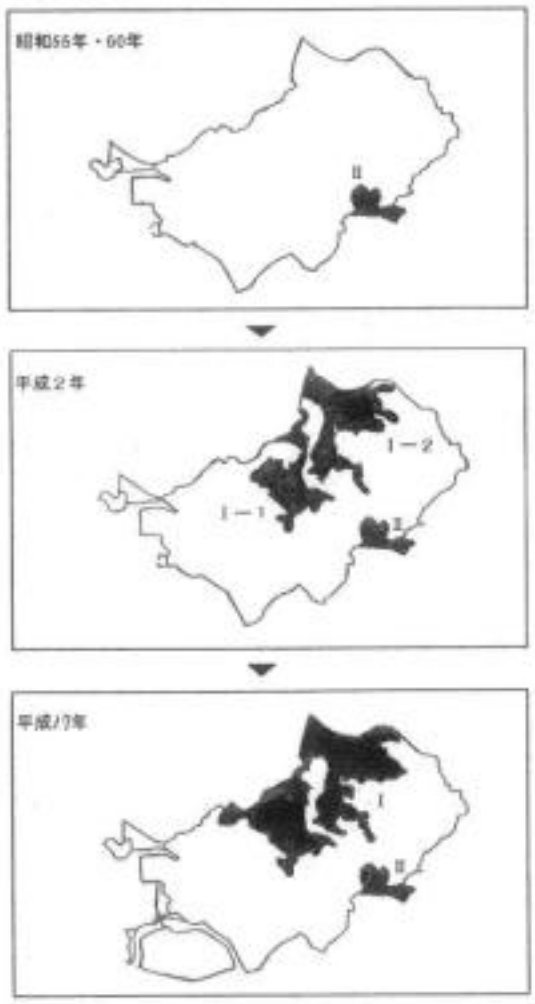
人口の変遷



	総人口	世帯数
S55	33,577	8,146
S60	38,570	10,019
H2	41,867	11,410
H7	46,704	13,572
H12	50,275	15,944
H17	53,429	18,160

※市民課統計資料より抜粋

市街地拡大のようす（人口集中地区の変遷図）



※人口集中地区（DID）
・国勢調査区を基準単位として、人口密度 4,000 人/Km²以上の調査区が隣接して 5,000人以上を有する地域。

本市の人口は約５万４千人（平成１８年９月現在）である。

市街地の状況としては、本土復帰（昭和４７年）前後から、那覇市の都市圏拡大の影響を受け、ベッドタウンとして宅地開発等が活発化、従前の人口規模（約１万人）を大きく上回るペースで急激に増加した。

昭和５５年の国勢調査時からは、豊見城団地およびその周辺を含む約４０haが「人口集中地区」となったのを皮切りに、平成２年国勢調査時には県道７号線、１１号線、６８号線を軸として、新たに人口集中地区が発生、その後も拡大を続け、市域の２３．６％にあたる４２０haが人口集中地区となっている。

具体的な人口集中地区としては、字高嶺、平良の豊見城団地地区、字嘉数、根差部、高安地区及び字豊見城、宜保、上田地区など、市内中心部から北東部にかけて人口の集中が見られる。

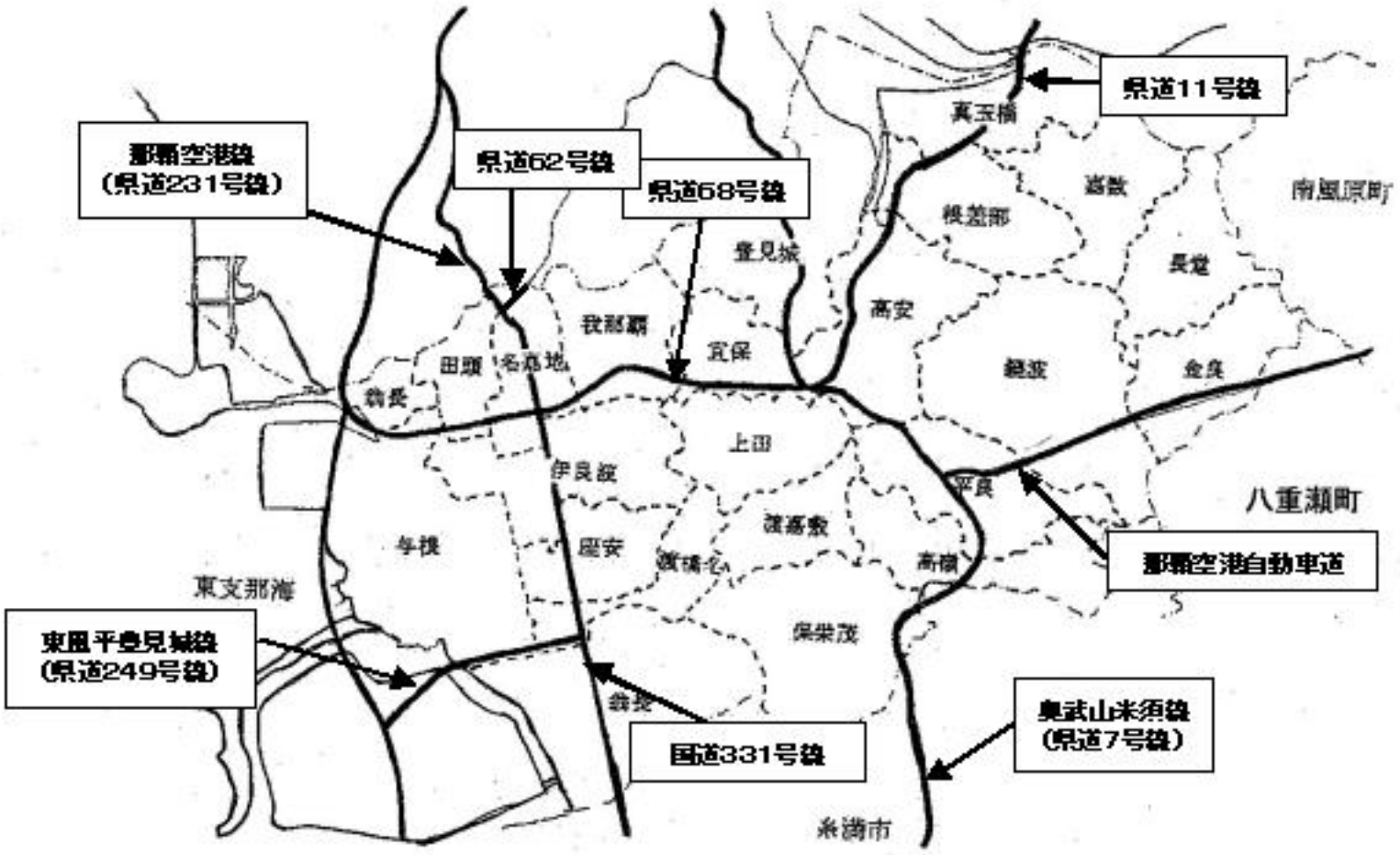
地域別の人口推移を見ると、宜保地区や豊見城地区など市内の中心部や豊崎地区な

ど埋立て新興地域などで増加率の向上が著しい。

本市は、県都那覇市に隣接し、区画整理事業や幹線道路の整備等、都市基盤整備の拡充に伴い、人口は増加の一途をたどってきた。今後も進展する都市基盤整備と市街地の整備によって人口の増加が予想される。

さらに近年、エアウェイリゾート豊見城構想として、瀬長島、与根、豊崎地区など市内西沿岸部が観光振興地域に指定されたことと併せ、観光や行楽客等の入域が増加してきたことから、高齢者と併せ観光客等の避難先が課題である。

(4)　道路の位置等



市内における陸上交通は、もっぱら道路に依存しており、道路の果たす役割は大変重要である。

とくに本市は、県都那覇市に隣接し、那覇都市圏から南部・島尻地域との陸路、とりわけ小禄地区及び糸満市域とを結ぶ交通の要衝となっている。市内には国道３３１号や那覇空港自動車道、県道１１号線、奥武山米須線（県道７号線）、県道６８号線など、国、県の幹線道路が走り、那覇市と本市とを隔てる国場川、漫湖流域には、真玉橋、とよみ大橋、爬龍橋など重要な橋梁が架かっている。また、平成２２年には、那覇空港自動車道の一区間として市内平良と上田間を結ぶ沖縄本島内最長の豊見城トンネルが開通する予定である。

そのような、県都隣接という立地的特徴並びに都市圏から南部地域への重要な交通

の通過点にあることから、市内の道路は日常的に慢性的な渋滞状況にある。このため、有事の際、避難の手段として多数の市民が自家用車を使用した場合、大渋滞を引き起こし、避難、救援などに重大な影響を及ぼすことが想定される。そのようなことから避難は、狭隘な市域であることも併せて考慮し、バス等や徒歩といった手段による避難を原則とする必要がある。

道路の破壊等、武力攻撃災害の状況によっては、瀬長島や豊崎地区など、橋梁で本島側と結ばれた沿岸地域が孤立する恐れがある。

(5)　モノレール、空港、港湾等の位置等

① モノレール

県内における大量輸送機関として沖縄都市モノレールが那覇市内にて運行しているが、本市域内での路線運行はない。本市域を越え、那覇市等への避難がある場合などは、バス等との連絡によりモノレールを利用する可能性も考えられる。

② 空港

市域内には空港施設はないが、瀬長島北側には那覇空港が隣接している。

同空港へのアクセスは、通常、那覇市鏡水地域から進入するが、本市の場合同空港へ瀬長島を経由して海中道路（※但し、道路法に基づく道路ではない。）で繋がっているので、非常時においてはこの海中道路からの空港進入も可能である。空港を利用する避難に際し、大混雑が予想される場合には、このルートからの進入も検討する余地がある。この場合、本市のみならず小禄地区や糸満市方面からの避難住民の進入もあわせて検討する必要がある。

なお、那覇空港は自衛隊との共用空港である。

③ 港湾等

市域内には与根地区に与根漁港及び瀬長島海中道路沿いに瀬長船溜場があるが、いずれも小型船舶（漁船）が碇泊する小規模港であり、避難時の住民搬送に利用される可能性は低い。市北側には県の重要港湾である那覇港が近接しており、本市からは近距離でアクセスすることが可能である。

(6)　自衛隊施設

自衛隊施設

市域内に自衛隊施設は存在しない。しかし、５の(2)空港の項目で述べているように、市内北西端、瀬長島のすぐ北側に自衛隊共用の那覇空港が隣接している。

(7)　その他

① 水源地等

市内には字嘉数、字饒波、字平良、字渡橋名など計６箇所の上水道配水池及び調整池がある。いずれも当該字の丘陵部に位置し、総貯水量は13,020トンで、貯水量の大きい順に平良配水池、渡橋名配水池、ニュータウン配水池、良長配水池、嘉数配水池、翁長調整池である。

また、豊見城市総合運動公園内には「耐震性貯水槽」２基２００トンが設置されている。

なお、那覇市小禄に隣接する字豊見城地内の丘陵部には那覇市が管理する配水タンクも存在する。